



のみがわ

2005年7月19日 発行



連絡先 〒146-0085 大田区久が原4-19-24

発行 大坪 庄吾方 呑川の会

e-mail : s.ootubo@nifty.com

会 HP <http://homepage3.nifty.com/nomi/>

高橋会員 HP <http://homepage2.nifty.com/aoiyume/>

定例会開催のお知らせ

次のとおり定例会を開催しますので、ご多忙とは存じますが、ご参加ください。

1. 開催日時 8月12日(金) 18時30分から21時(予定)
2. 場所 池上文化センター第二集会室
3. 議題 親子ウォーキングの具体的なつめ
17年度の活動計画の具体化
呑川沿いの植物調査ほか
未改修区間およびその上流区間の改修プランの検討

2005年総会を終えて

代表 大坪 庄吾

呑川の会をみんなで支えたい。

6月25日(土)、梅雨のさなかでしたが、中休みなのかよい天候にも恵まれ、2005年度の総会と学習会(2004年度の企画)を無事終了することができました。昨年度は呑川の会にとって大きく前進した年でした。「呑川は流れる2004」が会員諸氏の努力により刊行され今までの活動をまとめることができました。大田区報などにも紹介され、印刷した200部がまたたくまに無くなり、希望の方々にお分けすることができないことになりましたが、その後CD-ROM版が刊行でき、これも学校や図書館にお分けすることができました。今年その増補版も刊行されています。はじめての企画でしたが会員の意見をもとに編集から印刷までの仕事が進行しよい経験になりました。

会の活動は、年間計画に基づききちんと行われ、夏に行った未改修区間のウォーキングの成果を呑川の会の提言としての改修プラン素案にまとめることができました。この改修プラン素案を東京都や大田区の関係機関、久が原周辺の自治会長さんにも伝え、2006年度に予定される未改修区間についての東京都の意見聴取にも対応できる素地ができたと思います。この素案は、決定稿ではなく、今後の活動の中で新たな提言を補充したり変えていくことができます。

「呑川をみんなが親しめる、安全な川にしたい」との声をさらに広げていくために役立てばよいと思います。これらの活動の成果は、会員数が50名を越えたことにもあらわれています。新しい会員のみなさんは、一緒に活動に参加するなかで親睦をふかめ、入会したことが楽しみになったと言えるような会にしてくださいようお願いいたします。今年度の総会から新たに事務局を強化す

る方策がとられました。「のみがわ」のニュースを分担して編集発行する体制ができたことです。事務局長の福井甫さんに過重な負担をかけないようにみんなで支え合うことが合意されたからです。みんな忙しいことは同じです。会員の方々はそれぞれ自分のできることで、今年度決まった年間計画を実行していけばよいのです。

今年度の活動計画にも入っていますが、「呑川の会」は呑川だけを学ぶのではなく、他の都市河川や川に関する環境問題や川と共生できる町づくりを学ぶことになっています。私も個人で旅行するとき、いつも「川」を見るのが楽しく、会に入ったことがとても役にたっています。すばらしい川を見ると、つい呑川と比べて悲しくなることもあります。去年は、神田川や石神井川からまねできることを発見することができました。会員諸氏がそれぞれご自分の興味や関心を活かして活動に参加して下さることを期待しています。

総会後に行われた、中瀬浩太さんによる「都市河川の魚類の分布と生態」講演も、私たちが現在取り組んでいく「呑川をもっと魚が住める川にしたい」に応える内容でした。そのことは他の方がまとめてくださると思いますので省略しますが、会活動に関わるよい内容を選んだことだと思いました。今年度とりくむ「呑川ぞいの植物調査」にも活かしたり、未改修区間の改修のために活かすことができます。

今年度も代表をお引き受けすることになりましたが、ともに支えてくださることを期待し努力したいと思います。

2005年度総会が開催されました

6月25日土曜日、蒲田小学校会議室にて2005年度の総会が開催され、予定された議案は、すべて議了され、無事終了致しました。

総会の議事内容は、次のとおりでした。

最初に議長を大坪代表にお願いして議事に入りました。

- | | |
|----------------|-----------|
| 1. 2004年度の活動実績 | ・・・福井事務局長 |
| 2. 2004年度の会計報告 | ・・・高橋会計担当 |
| 3. 同 監査報告 | ・・・白石会計監査 |
| 4. 2005年度活動計画 | ・・・福井事務局長 |
| 5. 2005年度世話人選出 | ・・・福井事務局長 |

2004年度 活動実績の報告

1. 呑川改修の具体案作成

未改修区間の改修プラン（素案）作成しました。

会報「のみがわ」第34号に掲載してありますので、ご覧下さい。

この案を都建設局河川部、第二建設事務所、区まちづくり課ほか関係箇所に説明して理解を得られるよう活動しました。

2005年5月23日に久が原地区久が原東自治会長、道々橋自治会長にも説明し理解と協力を要請しました。

2. ウォッチングウォーク

9月12日に井の頭公園源泉から環七まで神田川上流域をウォッチングウォークしました。

11月13日に板橋区北区内の石神井川中流域をウォッチングウォークしました。

2005年4月3日矢川(多摩川支流)をお花見ウォッチングウォークしました。

3. 研修会の開催

2005年6月25日に都市河川の魚類の分布と生態について五洋建設中瀬浩太さんを講師に招いて研修会を開きました。

4. 『呑川は流れる・2004』のCD版を作成し配布しました。

5. 『呑川は流れる・2004』の増補版(2005)を作成しました。

6. 大田区への働きかけを強化し、呑川のゴミを区の管理項目へ入れるように要請しました。

7. 呑川親子ウォーキングの実施(2005/8/20,21)に向け準備をしています。

8. 区内小学校での授業に協力しました。2/26:池上第二小、5/20:東蒲小 7/5:久が原小

9. 9月18日、神田川サミット In 新宿に参加し、他の団体と交流しました。

10. 6月7日、区環境保全課生きもの調査に参加しました。白石記事参照。

11. 会報「のみがわ」を年5回発行しました。7/20,10/30,12/20, 2005.3/14, 6/3

調査・寄稿

呑川水源探査 白石 琇朗

公共用水の水質保全と下水道法施行令の改正 折戸 清

呑川上流生き物歳時記 高橋 光雄

地下鉄構内からの地下水活用について調査の報告 大坪 庄吾

消えた洗足用水(雑感) 吉田 銀夫(としお)

写真投稿 呑川残影 加藤歌子さん

行事実績

2004年

8月7日(土) 定例会 蒲田小学校

9月12日(日) 神田川ウォーキング

10月2日(土) 呑川改修具体案検討のためのウォーキングとワークショップ
(10月1日(金)予定の定例会はこれに換える)

11月13日(土) 石神井川ウォーキング

12月4日(土) 定例会 蒲田小学校

2005年

2月4日(金) 定例会 池上文化センター

2月25、26日 久が原フェスタ協力 場所 久が原小学校

2月27日(日) エコフェスタワンダーランド 参加 場所 中富小学校

3月26日~4月9日 こらぼ大森 水辺の活動展 参加

4月3日(日) 花見ウォーキング 矢川 兼 定例会 立川アミューズ

6月3日(金) 定例会 池上文化センター

6月25日(土) 総会 蒲田小学校

会員の動向

2004年度入会 9名 退会 4名 2005年度6月現在会員数 50名

会員名簿について

会員名簿につきましては、従来総会終了後、会員名簿に氏名、住所、電話番号、メール・アドレスを記載し、お送りしておりましたが、個人情報保護法もあり、すべての項目、あるいは一部の項目の公開中止を希望される方は、福井(電話3729-8827)あてご連絡ください。

また逆に新たにメールをご利用の方はアドレスをご連絡ください。呑川に関する情報を速報でご連絡するとともに相互の情報交換に活用したいと思います。(福井からのメールを受信されている方は結構です) 福井

会員の動き

入会 新たに次の方が入会されました。記載が遅れ、すみませんでした。

坂上武久・順子さん(西馬込)

深沢ナオエさん(東矢口)

鈴木英二さん(東雪谷)

退会 次の方が退会されました。長年のご協力ありがとうございました。

江角友子さん

越後ふみ子さん 越後さんは長年会計の仕事ありがとうございました。

平本英之さん

松本武士さん 松本さんは去年山梨県上野原に転居されました。



雲谷 宮前橋下流右岸のネムノキが二本 開花し出した。さくら並木に混じって二本だけケリラ的にある。 福井

2005 年度活動計画

活動計画の概要

(1) 提言活動

呑川と流域の環境改善のための未改修機関について東京都や大田区と連絡を取ってきたことを継続する。

東京都は都内の河川について整備計画(案)を順次策定しHPで発表してきているが、「呑川」についても2006年度中に(案)が発表される見通しである。

ゴミの回収について区の管理項目となっているので、連絡を取る。

(2) 文化活動(講座・ウォーキング・ウォッチング)

呑川をもっとよく知ってもらうために親子のための呑川講座や他の河川の見学、呑川源流探査会な

どを開催する。

(3) PR活動(広報)

呑川の会報「のみがわ」を世話人が分担して編集・発行する。年5回程度。

『呑川は流れる・2004』のCD版、増補版の普及。

会としての催し、他の団体との共催による事業などの際に案内をする。

会員募集も機会あるごとに行う。

(4) 学習活動

講師を招いての学習会を開催する。今年度は「野鳥」について取り上げる。

(5) 交流活動

環境・河川に関する諸団体と積極的に交流し、会員外個人や他団体との学習会などに参加する。

(6) 親睦活動など

お花見ハイキングや機会あるたびに会員同士の交流と親睦を図る。会の行事や会報発行発送などの作業に会員で手のあいている方々積極的に参加してもらえよう働きかける。

年間スケジュール

2005年

- 6月 総会
会報「のみがわ」の発行 担当 工藤
- 8月 8/12日(金)夜 定例会 池上文化センター
8/20日21日(土・日)親子呑川ウォーキング講座 担当 全世話人
詳細は、7月中に決定し呑み川沿いの小学校に案内いたします。
呑川沿いの樹木調査(詳細は定例会で検討し決定する)
- 10月 10/7日(金)夜 定例会 池上文化センター
10/22日(土)呑川源流探索ウォーキング 担当 白石
会報「のみがわ」発行 担当 白石
- 11月 11下旬「二ヶ領用水」(川崎市)ウォーキング 担当 大坪
- 12月 12/3日(土)定例会

2006年

- 1月 会報「のみがわ」発行 担当 高橋
- 2月 以降隔月定例会
- 6月 総会

2005年度 世話人選出

事務局から提案され次の方々が選任されました。また、新たに菱沼公平さんが世話人になりました。

皆様、よろしく申し上げます。

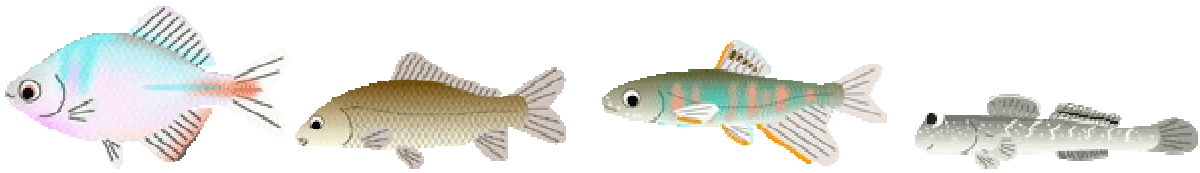
代表 大坪庄吾(留任) 副代表 榊原健夫(留任)

会計 高橋光夫(留任) 会計監査 白石秀朗(留任)

事務局長 福井甫(留任) 世話人 工藤英明(留任) 世話人 菱沼公平(新任)

魚勉強会が開催されました

福井 甫 記



呑川の河川構造と貧弱な魚類相

6月25日の総会の後、東京港野鳥公園のグリーン・ボランティア干潟班で活動されている中瀬浩太さんを講師にお招きして魚勉強会を開催しました。

呑川の魚類の生態上の問題点に焦点をあてながら、少しでもより深く理解するために魚類学の基礎にも触れた内容で、わかりやすい説明とあいまって大変楽しい勉強会でした。主な内容は次のとおりです。

1. 日本の淡水魚の起源

日本の淡水魚の起源は大きく言ってサハリン・沿海州と類似の北方系統のものと揚子江・黄河・朝鮮半島流域と類似の南方系統のものと2種ある。北方系統のものは北海道に、南方系統のものはフォッサマグナ以西に元々は分布していた。

2. 淡水魚と海産魚の浸透圧の違い

体液濃度は海水濃度の3分の1なので淡水魚は体液濃度が環境水より高いのでエラを通じて水が入ってくる。従って積極的にナトリウム、塩分を取り込み浸透圧を維持している。

海産魚は逆に体液濃度は環境水より低いので、海水を飲んでエラから水と過剰なナトリウム、塩分を、マグネシウム、カルシウムは腎臓から排出している。

3. 塩分耐性

塩分に対する調整機能が大きいもの（広塩性）と小さいもの（狭塩性）がある。

広塩性はウナギ、メダカ、マルタ、サケ・マス類、ハゼ類、ボラ、テラピア等で狭塩性はコイ科魚類（コイ、フナ、ドジョウ等だがマルタは例外）、アジ・サバ、マダイ等で広塩性の魚は淡水、海水の両方に棲めるので、呑川にいるのはこの種類だろう。

4. 呑川の魚類の産卵

呑川で見られる魚類の産卵形態はボラが海面に卵を浮かばせる「分離浮遊卵」型である以外、コイ、マルタ、ドジョウ、マハゼ、ヨシノボリ等ほとんどが「粘着卵」型で、これらは水草、石の表面、浮遊物、あるいは

底に付着させるタイプだが、呑川には水草、石等がなく、呑川で産卵させることはむづかしい。

5. 呑川の魚類相からわかること

呑川で繁殖している魚はみられない

河口～沿岸の影響が大きい

マハゼ、ウキゴリ、ウナギ、マルタ、ボラは河口より遡上している。

池（洗足池？）から供給されている種がある。

ヨシノボリ、マブナ、メダカ、モツゴ

6. 護岸に魚巣ブロックの組込み

護岸に魚巣ブロックを組込むと季節により違った魚が利用に魚種の多様化に役立つ。岡山県の吉井川の例では夏はカワムツ、秋はギンブナ、冬はアブラボテ、カワヨシノボリのように。

7. 河川の生態的構造から見た呑川の問題点

河川構造が単純

産卵場所、仔稚魚の生育場所がない

瀬・淵の存在がなく、環境的多様性がない

流下距離が短い 出水時に海に流される
 河岸帯（河畔植生、水草群落）が存在しない
 産卵場所がない
 魚類のかくれ場がない
 河床構造の問題（河床はコンクリート）
 産卵場所が提供されない
 感潮域における停滞
 船たまり部分の水質停滞 酸素不足 遡上してベントス（川底に棲むカニ、エビ類）に被害

呑川は豊かな魚のためには厳しい環境だが、それを改善する手始めは道々橋付近の未改修区間の改修工事でしょう。そのための参考書として次の図書も紹介されました。

玉井信行 水野信彦 中村俊六編 河川生態環境工学 東京大学出版会 1993.11 発行

呑川の生き物調査

白石 秀朗 記

6月7日（火）13時30分に「大田区まちづくり推進部環境保全課」の職員5名と「呑川の会」5名が北之橋（池上橋の1つ上流橋）に集合し、生き物調査を行った。当日は絶好の調査日和の晴天で、長袖長ズボンの作業着と長靴を履き、普段は入れない川底に向け命綱を着けて、石垣に取り付けられている鉄梯子をつたって降りた。上の道路は暑かったのに川の中は涼しく、水もきれいで臭くも無く、小魚が群れをなして泳いでいる風景は実にすばらしかった。この初めての感激を多くの人に味あわせてあげたいと思った。



環境保全課のタモを借りて水の中に入り、魚の群れに向けてサット杓えばいくらでも捕れると思っていたら、魚が素早く逃げて中々捕まらない。こんなにいっぱい居るのにどうしたことかと皆で言いながら、長栄橋・根方橋まで川の中を探った。結局少し深みになっている淵に逃げ込んでいる魚や大きな岩の周りにタモをサット入れ、私は3匹程のマルタと弱っている蟹・生きの好い雄のエビガニ・やや大きな亀を捕まえた。環境保全課の人は投網を使い捕っているが、やはり中々獲れないようだった。



3時頃川の中で集まり獲った魚を写真に撮り、判定したところ「マハゼ」「マルタ」「モツゴ」の幼魚だった。今回の調査地点は長靴でくるぶしの上位の浅瀬の真水のせい、鯉等の大きな魚はいずれに小魚ばかりであった。

その後、900m程上流の本村橋の両側2箇所に環境保全課が前日から仕掛けをした地点に移動し、期待を込めて得物を橋の上から引っ張り上げたが、残念ながら今回は不漁で何も収穫がなかった。また今秋に今回同様、共同調査を行うとのことで解散した。



会費の納入のお願い

総会に出席されなかった方には払込取扱票を同封しますので、お手数ですが、会費（2000円）の納入をお願いいたします。

福井